

第19回世界獣医学会議出席およびアメリカ合衆国獣医畜産 事情視察団報告(5)

誌名	日本獣医師会雑誌 = Journal of the Japan Veterinary Medical Association
ISSN	04466454
巻/号	25巻8号
掲載ページ	p. 455-457
発行年月	1972年8月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



第19回世界獣医学会議出席およびアメリカ合衆国

獣医畜産事情視察団報告(5)

Ⅲ. アメリカ合衆国獣医畜産事情視察

カリフォルニア大学(獣医学部)

昭和46年18月12日、サンフランシスコ北東86マイル(約120km)にあるサクラメント・ディビスのカリフォルニア大学獣医学部を全員訪れ、学内を見学、学内教育施設、臨床施設等を詳細に訪問見学した。

カリフォルニア大学獣医学部はサンフランシスコの北東デビスの広漠とした平原の中に位置し、遠くハイウェイよりもこれを望見される、学園のなかには獣医学部の他に、農学、畜産学、理学やほかの自然科学関係の学部の多くの建物が存在している。

獣医学部は1948年の創立である本館と昨年の夏に完成された臨床館(家畜病院)の2つの建物からなっており、はるかハイウェイから望見された建物はこの新設なった臨床館である。

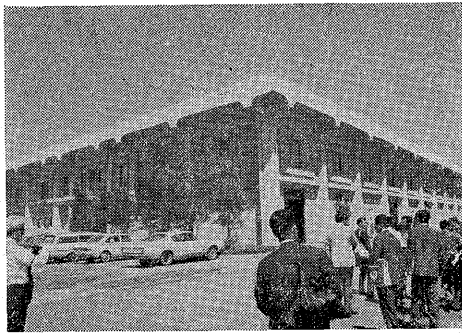


写真1 カ大学獣医学部臨床館

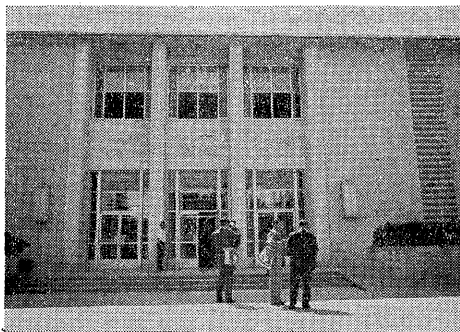


写真2 カ大学獣医学部

1行の団員はこの臨床館に13.10着、既に玄関にBANKOWSKY教授とLINDBERG教授とわが国から留学して

BANKOWSKY教授のもとで微生物学を専攻している松本和正氏(北大出身)と農林省家畜衛生試験場の杉森正氏が出迎えておられ、一同挨拶を交歓し、越智学長、尾形教授はBANKOWSKY教授とは旧来の知己としてしばし旧交をあたためる。

まず、はじめに臨床館より見学を行なう、担当の病院長のLINDBERG教授より懇切な説明あり、臨床館は小動物臨床部門と中動物・大動物部門に分かれており、臨床教育と外来診療業務を行なっているようである。訪問の当日の時限においてはあいにく大学は夏期休暇中で業務はわずかしかな行なわれていなかったが、小動物臨床部門の外来診療室には患者を連れた人々が訪れており、また、手術室では犬の腹腔内腫瘍の摘出手術が行なわれていた。その手術の状況はテレビカメラで映像され、ガラス越しに刻明に研修できるようになっており、その施設と教育の完備さに感嘆する。

中動物・大動物臨床部門では入院畜舎もすばらしく完備しており、また施設も大きく、リハビリテーション用サークル、装蹄室も完備し、装蹄担当のC.A. HEUMPHREUS氏が懇切に説明してくれた。

大動物では馬が来診中で、また、入院室には骨折やその他多くの馬をはじめ牛が入院して治療されていた。

臨床館見学を終えてLINDBERG教授と別れを告げて、そこから約1km離れた獣医学部の本部に女子学生の学園説明のアナウンスを聞きながら学内観覧車で移動した。

各講座の研究や教育設備のある本部の建物は芝生と緑の木々に囲まれた2階建の落付いた建物で、臨床以外の教育と研究はここで行なわれているとのことであった。この時期は夏期休暇中のため教育研究室もあまり活動していないようである。

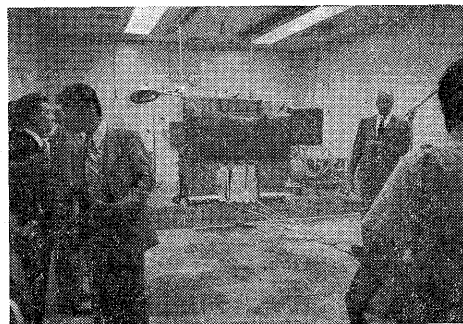


写真3 カ大学獣医学部臨床館大動物診療室
(説明されるLINDBERG教授一右側)



写真4 同大学臨床館小動物待合室

各研究室，教室を1巡見学。

その後学監室において学監(Dean) およびBANKOWSKY教授を囲んで懇談会を行なう。カリフォルニア大学獣医学部の現況や教科内容等について懇談した。

近代獣医学は社会上，必要不可欠の分野であり，したがって教育は科学と総ての動物の疾病を扱かうことのできる技術，防疫学ならびに動物管理さらには人畜共通伝染病などを主体として，4年間の獣医学教育の期間中に獣医学上実際必要な動物管理，疾病管理，飼料管理ならびに畜産獣医学の訓練を行なう。

獣医学を専攻しようとする者は最初の2年間に高校において基礎的獣医学を修め，大学の定める60単位以上90単位(化学25単位，生理9単位，動物学ならびに生理学17単位，遺伝学3単位，英文法8単位，選択科目28単位)を修得したものが専門過程への入学有資格者となる。大学においてはそれらのものについて入学選考会議を開き，入学者を選考する。1970年度では入学希望者数715名，入学有資格者数700名，入学許可者80名であった。

入学許可になったものは最底4年間で200単位を修得しなければ卒業できない。1年には秋・冬・春および夏学期の4学期に分けられ，秋学期から授業が開始され，夏学期は夏季休暇に当たる。

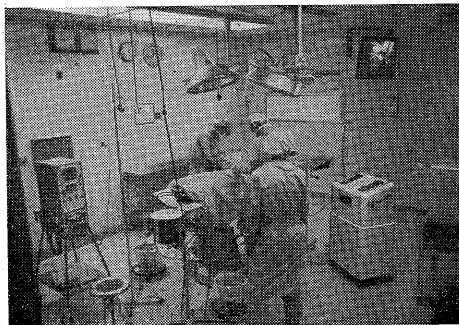


写真5 カ大学小動物外科手術室
(右上のテレビで手術を放映中)

4年間における教授単位は下記のとおり

	秋学期	冬学期	春学期	単位数計
1年次	13(単位)	17(単位)	18(単位)	48
	解剖学 8 生理学 5	解剖学 8 生理学 6	解剖学 3 生理学 12 選択科目3	
2年次	15(単位)	16(単位)	17(単位)	50
	栄養学 3 病理学 5 生理学 4 獣医微生物学 5	伝染病・防疫学 2 病理学 5 獣医微生物学 9	解剖学 4 臨床学 4 病理学 4 獣医微生物学 5	
3年次	17(単位)	16(単位)	17(単位)	50
	臨床病理学 3 臨床学 14	伝染病・防疫学 4 臨床学 12	臨床病理学 3 臨床学 9 伝染病・防疫学 5	
4年次	16(単位)	18(単位)	18(単位)	52
	臨床病理学 1 臨床学 13 病理学 1 獣医微生物学 1	臨床病理学 1 臨床学 12 病理学 1 獣医微生物学 1	臨床病理学 1 臨床学 10 病理学 1 獣医微生物学 1 選択科目3	

4年の過程を終え，所定の単位を修得したのものには獣医学士ならびに公衆衛生学士の2つの称号が与えられる。

卒業生は大別して公衆衛生関係20%，獣医畜産関係80%であり，内容的には約半数が個人開業獣医師となり，その他は政府関係の業務(公務員)と大学進学者である。

開業獣医師としては小動物関係が大半で，続いて大動物関係とくに馬専門の仕事に従事するものが多い。また大学院にはおよそ年間卒業生の1/4が進学する。

Dean(学監) Dr. PRITCHARD, W.R. の語るところによれば将来は病院，学部との統一を図り，二つの基本線を獣医学教育のために確立とする ①基礎と応用の学問と臨床科学との結びつき ②基礎獣医学の研究，これは近く

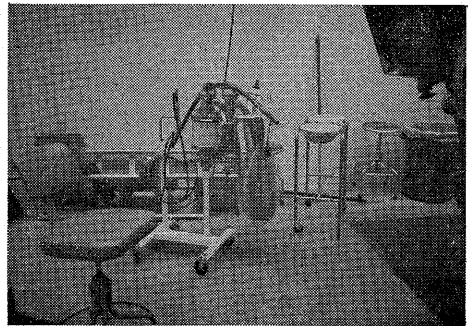


写真6 カ大学外科手術室の麻酔器具

医学部に最大の総合医学センターができる予定である。

また学部建設等の予算面には苦勞しており、病院は昨年できたが、予算面において苦勞し、現在学部との統一のメドがつかめていない。建設も10年前は500万ドル程度であったが、その後最近では1,500万ドルともなっ

ている。

BANKOWSKY 教授によれば大動物臨床獣医師はアメリカにおいても最近減少の傾向にあり、大動物臨床の農村獣医師を大学でも進めてはいるが少ないと話しておられた。(つづく)

地方会だより

要指示医薬品の徹底方を会員に要請

——岐阜県獣医師会——

動物用要指医薬品については7月1日より「鶏」と「ワクチン類」の拡大指定を機に畜産と家畜衛生に対する獣医師の責務はますます重要となったが、この機に際し、岐阜県獣(武藤六三郎会長)では開業部会長(林 義興氏)名をもって強力にその周知徹底を図った。

「要指示薬拡大に際して会員に訴える」としてその社会的意義と、難関に処する要望をなし、獣医学の介在しない養鶏産業の危険性を訴え、さらに純正畜産食品の生産の必要性和医薬品の困乱の是正を要望し、また会員の鶏病獣医学のさらに研鑽を要望され、会員の協力方の強い決意と、要望をされた。

また、会員に対しての具体的方針として、(1)薬品業者、製薬会社の囑託などは受けてはならない。(2)ふ卵場、養鶏場等の囑託となることはよい。(3)各職域分野を尊重することは職業倫理上からも必要である(非治療物品の販売や薬品販売許可申請等の行為の禁止、動物薬販売業者の診療行為も認めない等)。(4)県の薬事監視行政の徹底要望とその活動期待。(5)料金等の基準(指示書料 200円、ほか往診料、診察料、剖検診断料など)。(6)養鶏農家の信頼を得る努力をする。

以上大要を会員に訴え、要望した。

家畜共済制度改正研究会開催

——中部地区連合獣医師会——

中部地区連合獣医師会(武藤六三郎会長)では7月28日、29日の両日にわたり静岡県農業共済連会議室において家畜共済制度改正研究会を開催し、地区内各県農業共済連職員および指定獣医師が(1名以上)出席し、問題点についていろいろ討議検討が行なわれた。

日本獣医師会より佐川常務理事と西川課長が出席した。

知事選の地方会推せん

——群馬県獣医師会——

群馬県獣医師会(泉 春作会長)は7月の県知事選候補者に神田坤六氏(現)を推せんし、推せん状を手交した。

群馬県知事の選挙は7月23日行なわれたが、神田氏が見事当選された。

——山口県獣医師会——

山口県知事選は8月2日告示、8月27日投票(即日開票)であるが、山口県獣医師会(梶山松生会長)は橋本正之氏(現知事)を推せんし、推せん状を手交した。

☆自衛防疫における獣医技術の強化

——農林省通達——

自衛防疫推進における獣医技術の対応は昨今ますます重大となってきており、その対応体制の強化について農林省畜産局長より6月1日付けで(47畜A第2395号)都道府県知事あて通達され、また、日獣会長にも通知された。

自衛防疫における衛生技術対応体制の強化について

(昭和47年6月1日付け47畜A第2395号)
都道府県知事あて 農林省畜産局長

最近における自衛防疫の一層の普及あるいは動物用医
日獣会誌 25 457~467 (1972)

薬品等取締規則(昭和36年農林省令第3号)の一部改正により予防液が新たに要指示医薬品に、鶏が要指示医薬品の対象家畜に加えられることなどにより、畜産経営に対する獣医技術サービスの円滑な供給に対する要請は一段と強まっている。

貴県(都道府)におかれては、すでに過去3か年間に於ける自衛防疫獣医師研修事業等によって獣医技術の向上あるいは省令改正に伴う諸般の準備措置などは整っているものと思料されるが、なお獣医技術対応体制の万全を期するため管内関係獣医師についての最近の豚、鶏疾病およびその防疫などに関する知識、獣医技術の向上を図り、養豚養鶏農家の諸要請に応え得る獣医技術体